



とべだより

令和8年8月31日

9月号

横浜市立戸部小学校

学校教育目標： それぞれが飛べ みんなで翔べ ゆめいっぱい戸部

防災の日を前にして

学校長 佐藤 朗子



夏休みが明け、学校には元気な子どもたちの声が響いています。校舎内を歩くと、今年も廊下にワックスがかけられ、ぴかぴかです。戸部小の子どもたちや教職員にとっては、夏休み明けのいつもの光景なのかもしれませんが、これは当たり前のことではありません。用務員のお二人には、感謝の気持ちでいっぱいです。また、おやじの会の皆様が、階段の壁のペンキ塗りをしてくださいました。暑い中、本当にありがとうございました。子どもたちは、この美しい校舎内で、友達と気持ちよく過ごすことができます。どの学年も、掃除が上手になってきたので、ぜひこの状態を保ってほしいと思います。

このような日常が続くことのありがたさを、この夏の自然災害の報道に触れるたびに感じます。7月の熊本での地震、8月の千葉での豪雨。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方々、今もなお避難生活を送られている方々が、一日も早く安心して過ごせますことを願っております。

横浜でも23日の午前2時頃に、緊急地震速報の警告音が鳴りました。ちょうど深い眠りについていた頃です。目が覚めましたが、揺れを感じる中、とっさに何をすればよいのか頭が働きませんでした。災害は深夜に起こることもあります。日頃から備えるとともに、どこに何を置いておくか、考えておかなければと思いました。

22日は、掃部山公園で「西区虫の音を聞く会」が行われましたが、開会と同時に雷が鳴り、雨がどんどん激しくなってきました。階段から川のように水が流れ、広場はまるで大きな池のようになっていました。傘をさして、雨が小降りになるのを待っていましたが、雷と激しい雨という自然の力の大きさに、不安な気持ちになりました。千葉豪雨では、24時間降水量が千葉市で360ミリを超える記録的な大雨になりました。そして、「内水氾濫」による浸水が各地で発生したようです。内水氾濫とは、雨水が下水道の排水能力を超え、側溝や用水路、マンホールなどから水があふれる現象です。戸部小学校周辺では、河川の氾濫による大きな浸水の危険性は高くありませんが、局地的な豪雨によっては内水氾濫が発生し、一部で浸水のおそれがあることも分かりました。

この夏休みに、区役所から今年度作成された「浸水ハザードマップ」「土砂災害ハザードマップ」「西区防災マップ」をいただきました。豪雨と大きな地震のあとだったので、いつも以上にじっくりと確認しました。自分が住む地域のハザードマップも、もう一度確認しようと思います。これらは横浜市のホームページでも見ることができます。

防災の日を前に、「いざというときにどのように行動するか」「家族が離れているときにはどのように連絡を取り合うか」など、話し合う機会をつくっていただければ幸いです。